教育委員会会議の概要（令和３年６月定例会）

◆　日　　時　令和３年６月３０日（水）午後２時００分から午後３時０７分まで

◆　場　　所　教育局　第１会議室

◆　出　席　者

教　育　長	福 田　　洋 之	出席
委員・教育長職務代理者	花 渕　　浩 司	出席
委　　員	里 村　　正 治	出席
委　　員	阿 子 島　佳 美	出席
委　　員	梅 田　　真 理	出席
委　　員	川 又　　政 征	出席
委　　員	後 藤　由 起 子	出席

◆　会議の概要

１　開　　会

２　議事録承認　　５月定例会及び６月臨時会

３　議事録署名委員の指名　　里　村　　委　員

４　報　告　事　項

（１）令和３年度仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査の結果について

（学びの連携推進室長　説明）

資料に基づき報告

里　村　委　員　３点ほど確認をさせていただきたいと思う。

１点目は小学校の理科についてである。理科の教科書の選定の際、我々委員はすごく悩んだところで、学校の先生方の意見の中でも、仙台市は特に理科に対する壁が高く、子どもたちが非常に苦労しているという話があった。これからの日本のことを考え、理科に対して子どもの頃から興味をなくすことがないよう、きちんと教育をしていこうという思いの中で教科書を選定した。そこでは、子どもたちの状況ではなく、教科書自体がいいものを選ぶという議論を採用することとした経緯があった。ただ、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるのだから、優れた教科書を使いながらも、子どもたちの理科の教育には万全を期していこうとの確認がされたところである。

資料を見ると、小学４年生、５年生で正答率が少しマイナスとなっている。この結果をきっかけに、理科を苦手としている子どもがたくさんいる中、どのように分かりやすく教えていくかということをテーマに、上手な授業をやられている先生もたくさんいらっしゃると思うので、皆で知恵を出し合い、教育委員会として改善策を打つことを検討していただきたいと思う。

２点目は、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」という設問についてで、これは非常に大事な設問であると思う。教育構想をつくるときにも非常に頭を悩ませたところがあり、基本方針Ⅲに「個性に応じた一人ひとりの学びを促し、長所を引き出す学校教育」とある。つまり、学校教育で大事なのは、短所を見つけて「駄目じゃないか」と言うのではなく、いいところを引き出すことである。教育は英語でエデュケーションといい、原語ではエデュケイトは引き出すという意味である。つまり、長所を引き出すことが本来の教育であり、基本方針にも入れた。

そうすると、先ほどの設問では 99%の生徒がそうだと言ってくれる状況がいいと思っており、結果としては 90%を超えているということだが、まだ足りないのではという感覚で各学校の先生方に取り組んでいただくよう、お願いをしてみてはいかがか。数値を見ると、平成 29 年度と比べると大分よくなっており、この状況をさらに加速させ、できれば 95%ぐらいはいってほしいと思う。90%では、やはり 10 人のうち１人はそう思っていない子どもがいるので、この点について、自分たちはどのように改善していけるかを検討し、実践してみるということである。また、中学１年生では少し結果が悪くなっている。専門の方にも分析をお願いしているようなので、このあたりに焦点を当てて、取り組まれたらどうかというのが２点目である。

３点目は、「将来の夢や目標を、持っている」という設問についてで、これは人によって理解の仕方が違っていいと思うが、数値が下がってきており、少し危機的な状況にあるのではないかという認識が必要であると思う。教育構想の基本方針Ⅰには「夢と希望を持ち、自らの可能性に挑戦する力を育てる学校教育」とあり、どの順番とするかについてはいろいろと悩むところがあった。先ほどの基本方針Ⅲは、当初案ではⅠにあったが、議論の中で、夢と希望を持つことをⅠにしたという背景がある。

そうすると、基本方針Ⅰに現実は沿っておらず、赤信号だという認識でやる必要があるのではないかと思う。調査方法の変化で数字が落ちているということもあると思うが、やはり 70%では低いのではないかという認識のもと、毎日の教育の中でどのようにやっていけるかを皆で悩まなければいけないのではないかと思う。

学びの連携推進室長　１点目について、理科を含め、今後確かな学力研修委員会で検証していくが、その際、例えば正答率が低かった問題や無解答率が多かった問題など、細かく分析したいと考えている。

２点目について、私の説明の中で、友達や家庭で認められることが自己肯定感につながっているという話をさせていただいたが、やはり学校の中でも子どもたちの活動が認められることにより、子どもたちに良い環境が生まれると思うので、その点についてはもう少し考えていきたい。

３点目についてだが、昨年度、例年に比べて大きく下がったところで、それが１年では回復しなかったと捉えている。直結する学校での活動でいうと、職場体験活動や、自分づくり教育の中での職業講話や夢教室など、外部の様々な方との触れ合いによる刺激によって自分の中で気づきが生まれる、そういったところを大事にし、これから

も続けていくことで、少しずつでも子どもたちに自分づくりでの面で、将来の夢や目標、見通しなどを育んでいきたいと考えている。

里　村　委　員　ぜひ来年度はこの３点目の結果について皆で注目し、すぐにはなかなか回復しないかもしれないが、３、４年をかけ、見える形で改善できるよう、力を合わせて対応されることをお勧めしたいと思う。

梅　田　委　員　私が気になったのは、観点別平均正答率の状況において、小学生の国語の「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が全体的に低くなっているという点である。国語はおそらく全ての学習の基礎となるので、今後ほかの学習にも影響していかないか少し心配であるが、学ぶべきことが増えてきている中、難しいところではあるかとは思う。

　そのあたりを含めて内容別正答率の状況を見ると、小学生の全ての学年で「文しょうを書く」という項目が全て目標値を下回っている。文章を書くということは、我々でも手で書かなくなってきており難しいとは思うが、タブレットが導入されることで色々な表現の仕方が今度考えられるので、手で書くだけではなく、タブレットで打ち込む、あるいは音声で吹き込み変換するなど、そういったことも含めた幅広い形で、子どもたちの文章表現力を高めていっていただければと思う。これからを生きていく子どもたちにとって、手で書くことをなくすということではなく、色々な幅を含め、表現嫌いにさせないことが大切かと思う。

　あわせて気になったのが、「同一集団による正答率が目標値と同等以上の児童生徒の割合の経年変化」の推移のところで、算数だけではないが、小学５、６年生で１回下がっている。小学５、６年生の算数が難しいのかなとは思うが、そこで算数嫌いになってしまう子もいるかと考えると、何か工夫が必要なのではないかと思う。その後、中学生になると割合が上がっており、そのあたりも今後検討いただけるとありがたい。そういった点で、この同一集団による推移という項目は参考になると思い、見させていただいた。

　最後に、先ほど里村委員がおっしゃった「将来の夢や目標を、持っている」という設問や、「自分の将来を考えると、楽しい気持ちになる」という設問の結果については私も気になったところである。結果はどれも低く、逆に「そう思わない」、「当てはまらない」と回答した割合が高くなっている。ぜひ、子供たちが、自分たちの将来は自分たちで変えていける可能性を持っているんだと思うことができ、自分の未来に向けて頑張っていけるような教育をしていければと思う。特に、仙台市は自分づくり教育に力を入れて取り組んできており、来年度、再来年度の数値が上がっていくよう検討いただければと思う。

学びの連携推進室長　算数については、これまで中学年が課題であり、それが５年生の結果に出ていると考え対応してきたが、少しずつ改善の兆しも見えており、今後も継続的に下からの積み上げを丁寧に行っていきたいと思う。

　自分づくり教育については、各学校において、先ほども申し上げた子どもたちが希望を持てるような取組みを行えるよう、人材など色々な支援策を考えいきたい。

後　藤　委　員　小学校高学年の理科、社会に課題が見られたことについて、コロナ禍の中、実験や体験活動があまりできなかったことが要因の一つと考えられるとする分析結果はそのとおりだと思う。小学４年生は校外学習が多い学年であり、それが小学５年生のテスト結果で社会が低い、応用力が低いというところに表れていると思った。

　１つ気になったのが、インターネット動画視聴の割合が増えていることについてで

ある。家庭にもよると思うが、インターネット動画は、個人の部屋など親の目の届かないところで視聴するパターンが多いと考えられ、それにより受動的な刺激を時間制限なく与えられることで、自分から情報を取りに行ったり学びに行ったりといった主体的な学びの姿勢がなくなってしまうこととなる。一方、本を読む子どもは賢いとよく言われるが、黙ってインターネットの情報をただ浴びている状態の子どもと比べ、自ら本を読みに行く子どもは、主体的な学びの姿勢が見ていて全然違う。

今の子どもは確かに本を読まなくなったが、本が嫌いなわけではなく、インターネットやテレビを見るようになり、どんどん本から離れていってしまっている。本離れを図書館教育や学校の教育、図書館の活用により食い止め、実体験や校外学習なども含め、子どもたちの学びの姿勢を育てていくことができたらいいと思う。

また、仙台市は楽学プロジェクトや職場体験など、子どもたちが地域の大人の魅力を感じ、自分の将来を想像できる企画がいっぱいあるので、今年はコロナで中止となったが、子どもたちが将来に希望を持てるよう、そうした取組みをどんどんやっていただきたいと思う。

学びの連携推進室長　動画視聴とは別だが、子どもたちがどんなときに携帯電話やスマホなどを使用しているかも調査しており、ご発言にあったように、自分一人で過ごす時間の中で使っていることが非常に多くなっている。また、読書をする児童生徒が少なくなっていることと、インターネット動画の視聴時間が増えているということには大きな関連があると思っており、今後、詳細な解析を加えたい内容の１つと考えている。

阿 子 島 委 員　先ほど梅田委員や後藤委員から話があった、国語の文章力の低下と読書量が減少にはとても関心があったため、とても残念な結果だと思った。文章力を高めるには本を読むことがとても大切で、今後は、子どもたちが本を楽しんで読む、さらに文章を書くのも好きになるといった教育にも力を入れていっていただきたいと思う。

また、小学校の社会についてだが、自分たちの暮らしに結びつく、「先人の働き」や「日本の国土と人々のくらし」などの内容の正答率がとても低くなっている。「地域の歴史や自然について、興味や関心がある」と回答した児童生徒は６、７割であるが、それが実際の成果に結びついておらず、とても残念に思う。自分の住んでいるところへの関心を持ち、教科書と実体験とが結びつくことで成果を残せるような授業の進め方をお願いしたい。

学びの連携推進室長　例えば先人の功績について、仙台市では副読本で一力健治郎さん、教科書では品井沼干拓の鎌田三之助さんなどについて学習するが、こういった検査問題のときには、そうした学習したものではなく、全く違う地域のこうした問題が出されていたため、資料の読み取り部分などが難しかったかと考えている。社会科の教科研究会などもあるので、こちらでも情報を共有したいと思う。

花　渕　委　員　これから分析すると思うが、コロナの影響が小学校では出て中学校では出なかったということについて、現時点ではどのように考えているか。

学びの連携推進室長　学びの連携推進室の中でだが、中学校は、３月までのカリキュラムを計画的に進めていく中、期末考査や中間考査など、その折々で確認がきちんとなされてきたというふうに話をしていた。小学校では教科書が新しく変わったこともあり、先生方もそれに対応しながら教材研究を進め、一生懸命取り組んできたものの、そうした状況の違いが小学校、中学校ではあったのではないかと話していた。この後、詳細な分析を加えてみたいと思う。

花　渕　委　員　１点、観点として入れてもらえればだが、クロス集計などをするときに、おそらく中学校では部活動が長期間行えなかったと思うので、その点と学力の関係の分析についても検討いただければと思う。

川　又　委　員　全体としての意見だが、例えばグラフの傾向で単純に年次的に上がるものや下がるものは、ある意味で年齢相当の話で理解はしやすい。一方、底を打っているものや山型になっているものがある。例えば「いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと思う」や「朝食を食べずに登校する日がある」の設問の回答結果は底を打っており、逆に「ふだん（月曜から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビやＤＶＤを見ていますか」の設問では山型になっている。何か特別な意味がある気もするが、今回の調査結果の概要全体として、特にこの特別な傾向のグラフについては、もう少し詳しい解析等をすることになっているか。

学びの連携推進室長　生活・学習状況調査については、当室と東北大学加齢医学研究所で解析をすることになるが、当室より学力とどの項目とを相関させて見ていくかの観点出しをするところなので、幾つかの観点をこれから考えてみたいと思う。

また、グラフの山になっている部分について、質問項目にもよるが、小学校の卒業時期や中学校の入学時期での動機づけや、中学３年生のときの目標意識、目的意識などの影響があるものも中にはあるのではないかというふうに考えている。

（２）新型コロナウイルスワクチン接種における教職員の優先接種について

（人事課長　説明）

資料に基づき報告

５　付　議　事　項

第 12 号議案　　臨時代理に関する件について
（仙台市公民館運営審議会委員の委嘱について）

（生涯学習支援センター長　説明）

原案のとおり承認

第 13 号議案　　仙台市スポーツ推進審議会委員の委嘱に係る市長への意見の申出について

（スポーツ推進課長　説明）

原案のとおり決定

第 14 号議案　　臨時代理に関する件について
（職員の人事に関する事項について）

（教職員課長　説明）

原案のとおり承認

６　閉　　会